

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の別に、社訓を独自につくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の朝礼、終礼、会議、日々の現場の中、又、代表、職員と共に研鑽している。	運営者自ら、日頃の実践に向け、利用者と日常から、関わりを持ち職員の良い手本となっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には理解してもらい何時も取り組んでいるが、地域の人々には、朝夕の挨拶、又、日常会話程度でゆっくり話す場はもっていない。	<input type="radio"/> 地域の方達との浸透をするよう取り組みたい。祭り、敬老会、文化祭は、参加している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝晩の挨拶から始まり、近くに駅、病院等があり、電車の待ち時間、病院の順番待ちの間、気軽にイス、ベンチ等を利用して頂き、お茶等をふるまい、トイレ等も良く借りに来られる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の祭り、町の敬老会、文化祭、個人的な敬老会等の参加。園児、小中学生の訪問を受けている。(帰宅途中と休憩、遊び等)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方、子供達等、特定の方々との交流はあるものの、地域としての取り組みには、祭りの参加位である。	○	地域の高齢者の暮らしについて、これからどう変わっていくか、重要な問題点としてとらえている。今後、話し合いを持って少しずつ取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の交代等が有り、全員が理解しているとは現状ではいえないが、会議等では話している。改善計画を実施し成果を挙げている。自己評価は管理者、職員で追加修正をして記入している。	○	改善計画等の記録の用紙はないが、勉強会、会議等の用紙(研修含む)を利用している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告を行った事はないが、今後、会議を通し報告や意見を参考にしていきたい。サービスについての報告や取り組み、状況の話し合いは、行っている。	○	参加者には特に家族等には、運営推進会議の目的、しくみ等担当者に話して頂いている。外部評価の報告も行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は、市町村担当者と連携し、ホームでの家族を交えての会議にも来て頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会に参加し、職員に話しているが、まだ一部の職員にとどまっている。活用出来る様、話しはしているが制度を利用したいとの申し出はない、又、家族の方には必要性は感じないとの返答もある。	○	家族、利用者、職員共に全体的には、まだ。制度についての熟知は浅い様に思える。制度の必要性の理解を深める様。勉強会等、話し合う時間を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加しミーティング、職員からの質問等に答える等、話している。		虐待防止と一言にとどめず、言葉使い等も含めとらえている為、話す場面は多い。帰宅された折、利用者からの話を聞きたい。家族と話す機会をなるべく作る様している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約時、十分に説明を行っている、かかりつけ医、金銭、入所者同志の関係、共有スペースの利用等又、解約時は連絡の出切るよう行事等の御誘いしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今の所、苦情(外部)は聞かないが、推進会議や家族に個別に訪問された際に管理者、職員より尋ねている。	○ 御利用者の意見を第一に聞き、不満、苦情、苦痛を外部評価に表せるように外部者(家族)にアンケート用紙を渡している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや、健康状態、金銭管理等については、その都度利用料納入時、訪問の際に話している。	○ 職員の移動に際して、家族等に報告はしているが確実な対応となっていない場面も見受けられる。今後改善したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を云い易いように訪問時、話しかけたり、電話で外部者が意見を云い易いように心がけているが、運営には家族は無関心の方が多い。	○ 運営に関する家族の意見を反映したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、夕礼の際、その場面に職員からの提案を聞いたり、運営者、管理者、自ら聞いて対応している。	運営者は職員の意見を重要し、それを利用者へ反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1ヶ月の職員の勤務調整をして、必要な時間帯に職員を確保している。	○ 突然の職員の病気、家族の変化時に対応出来る様にしたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の病気(長期)時の支援は、アルバイトの方の支援を受けられよう最小限に抑える努力をしている。利用者へのダメージを防いでいる。	朝礼、夕礼時に職員の移動時で利用者へ不安を起ささないよう、説明し理解して頂く様話している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。		高齢者職員は人生経験が豊かなので、若い職員とのコミュニケーションを図り、社会参加自己実現の権利を保証されている。
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	費用は法人負担とし、募集要項等も見やすい所に提示している。まだまだ希望者は少ない。勉強会等も増やして行きたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	ネットワーク作り、勉強会を同業者、職員と交流を持つように心がけたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	一人一人の職員の声を代表、管理者は朝の会議の時等、意見を聞いて対応している。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時、本人及び、家族の希望する事を良くお聞きし、本人の不安を出来るだけ取り去るように、安心して暮らして行けるように、又、家族との連絡を密にしている。	出来る限り、不安を利用者が持たないように家族の訪問を歓迎している事を、お知らせしている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは少しの変化や、本人の希望する買物(少し高い)等は、家族へ電話連絡、園に来られる方は来ていただき、相談する事を初期にお話して、そのようにしている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の支援は、本人、家族との入所時ケアマネを交えて何回も支援方法を、云い会い相談し、本人の意向に添って対応をする。介護士を含め対応に努めている。	初期対応は、利用者のこれからの生活に重要な事等で特に職員は対応を何回も話し合い、会議をもっている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が知ってる方が利用者の中に居れば、その方と雑談してもらったり、どのようなサービスが必要なのか除除に開始するよにしている。その都度家族に相談し、介護者はその都度、横の連携をとっている。	なかなか、心開いてくれない利用者には、時間をかけて、ゆっくり支援するようにしている。日中の声かけ、趣味をそれとなく、お聞きする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との介護時、昔の若い頃の思い出話し、楽しかった事、苦しかった事等、共に聞いたり、職員も自分の事を話したり、相談して支えあう関係を築いている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は家族が訪問時に利用者の意欲的なリハビリや、食事の事等話し、家族の訪問が遠い家族には、電話で常に近況をお知らせしている。	○ 家族を食事会に時々、来ていただくようにと思う。隣に座っての共に食事をするのも楽しいと思う。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係に向け、常に家族との連絡をとり、利用者が体調向上の時等、家族に介護者と一緒になって喜んでもらっている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が突然、訪れたりした時は、自室にお通したり、ディルームにお通しし、お茶、お菓子等でおもてなしし、馴染みの方との関係が良い方向に向かうよう、又、行事等に誘い、関係が途切れないよう支援している。	○ 馴染みの方が宿泊を希望する時は、希望に添うようにしたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の孤立は絶対に避けるように、職員は一人一人の、利用者の把握を心がけ、談話室等に誘い、仲間に入るよう声かけし、誘導している。	自室で絵を描いたり、読書をする方には、静かに見守りをしている。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した利用者が、外(病院)等で会った時等、家族を交えて近況を聞いたり、訪問に誘ったり、又、電話での関わりをしている。	○ 終了者の家を訪問し、雑談を交わしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室にて一人で静かに本を読んだり、絵を描きたい方には、本人の希望を容れて見守りをする、又、散歩等の好きな方には介護者が付いて、散歩等好きな事をしている。外泊希望があれば、家族の意向をお聞きし、本人の希望に添うようにしている。	帰園した時に外泊の様子を家族に聞いている。それを介護の参考にする時もある。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院関係者と情報交換、又、ケアマネとも連絡をとって把握に努めている。本人も含め、家族ともコミュニケーションを取り、初めの面接の際に聞きとりをしている。	面接の際に決まった用紙がない為、A4用紙に記入している為、面接時の用紙作成していきたい。聞きとりをしたことは、ミーティングにて申し送りを実施。又、記録に貼り付けている。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日30分程度の時間をとっている為、変化があった時等、いつも話し合い把握できるようにしている。又、一人ひとりの個別のケア等、1日の過ごし方の記録用紙があり、職員で共用している。	食事状態でその日の変化が解り、記録を取っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合いの場はもてておらず、家族からの要望やこちらからケアについて尋ねたりしている。又、本人にも聞くが会議という場がない。ミーティング時や記録時に意見をだしあったり、介護計画の見直しの際に職員の意見やアイデアを尋ねている。	なるべく、会議という場を作って、話し合いを行ってきたい。本人の状況や出来事などは、訪問時に話しているが充分ではないと思う、積極的な家族も少なく、難しいところもあるが、少しずつ、反映させていきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員と話し合い現状について、確認し合う。家族にも報告し新たにどうしたいのか等、本人含め、うかがうようにしている。見直しや変化に時は作成し直している。	家族と職員との話し合いの場がもてておらず。職員での共有していることを家族訪問時や、電話などで1人の職員が確認している状態。見直しはできているが、しっかり行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録、日誌、ミーティングにて共有している。見直しや、気づいた事には、記録を確認している。		記録の内容を、利用者の発言や行動など、もう少し詳しく記入していくよう取り組みたい。内容が同じようになっていることもあり、職員の関わりや改善、計画に添ったケアができるようにしていきたい。ミーティング等により見直したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望、家族の希望等を聞き、買物、外出、リハビリ、畑仕事、カラオケ、ちぎり絵、折り紙、旅行、お寺参り、動物とのふれ合い等々出きる限り支援している。		四季を通じ、公園等をお連れしたり、ドライブに日帰りでお出している。余暇の利用を楽しく過ごしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が希望した時、地域の温泉等に介護者で行く。又、警察には協力、支援をお願いしている。	○	消防とは一番必要な事等で、消化活動面でお願いしようと思っている。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーとのサービス向上を話し合い、他の事業所の看護師のサービスの支援を受けている。	○	毎日、看護師が勤務出来るようにしたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	町、役場との総合的なケアマネジメントを話し合い、2ヶ月に1度、地域包括支援センターと話し合いを持っている。その時、行事等の活動も協議し、役所との催しに参加している。御家族も交えている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族のかかりつけ医を第一優先し、納得の行くかかりつけ医にかかってもらっている、希望で九大、北九州、飯塚病院等にも希望でお連れしている。		これからも支援する体制を継続していく様努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	週1回の看護訪問だが、ノートやミーティングで情報交換はよくできていると思うが、今後は緊急時や酸素の方法や、医療活用について、もう少し支援できるように取り組みたい。
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		リハビリ病棟に入院された利用者の退院に含まえ、OT、看護師、医師、ケアワーカーか、家族とカンファレンスを実施できるよう依頼し、取り組みはじめた。それをふまえ、病院と退院後も様々な情報交換できるよう取り組みたい。
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		重度化、終末期を迎えられた方はいないが、最近、家族からは時々、今後について不安な言葉もある為、定期的に家族の考えや思いを聞きたい、医療関係者と話し合える場をつくるようにしたい。
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期を迎えられる利用者がかかりつけ医と連絡を取り合い、家族と共にホームでの終末を迎えさせてあげたい。
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		住み替え時ダメージの防止として、何度でも納得のいくように充分、話し合っ家族と共にケア関係で情報交換をしている。本人の納得の上、住み替えをしている。当ホームより別の居所には、行っていない。(病院への住み替え時ケア)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけや介助、排泄、失禁、入浴、食べこぼし、言葉かけなど自尊心、羞恥心に配慮が充分だとはいえない場面もたまに見受けられる。難聴の方への声かけが難しく、ジェスチャー等使い、工夫している。	○ 職員の交代があり難聴の方の声かけが、うまくいかない場面がある。声のトーンや、話し方等に指導に心がける。シュレーター等の設置がない為、メモ等は破ったり、決まった場所に捨てている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	予定外の買物、知人のお見舞い等応じている。又、職員の確保も出来ている。利用者の携帯品等、例えば、携帯電話の申し入れ等には、御家族、本人、職員で話し合い場を設け決めている。	電話機子機2台の設置があり、使用時間の制限はなく、気軽に使用されている。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	談話室へと声かけし、レクリエーション、マッサージ機等で体調が良ければ参加を促している。台所の手伝いが好きな利用者様には食事の下ごしらえ、配膳の手伝い、後片付け等手伝われている。	昼の上や、ソファに横になられたり居室で、読書、他者の方と散歩、理容にとそれぞれ、御自分のペースに合わせた支援を心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度訪問美容室にお願いして好きな髪形をされている。	近所の理髪店への顔そりに行かれたり、その他、行きつけの店、家族、職員、皆さんそれぞれの要望に応じ、毛染め等にも応じている。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの献立も取り入れ、調理の下ごしらえ、皮むき、根切り、味見、盛り付け、配膳、テーブル拭き、食事の後片付けなど、職員と一緒にされている。	○ アンケートを取り、希望される料理、又、一番人気、二番人気を1ヶ月のメニューに取り入れていきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好物の刺身を家族から持って来られたり、栄養ドリンク、タバコ等も喫煙所で、吸われている。お酒は、主治医、又、御家族の判断により、今は飲まれる方はいない。	体調状況に応じ、家族からの申し入れ、タバコの本数も職員一人一人、把握し説明し、本人も納得されている。嗜好品の制限はない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人を常に観察、行動の変化を見極め、さりげなく、トイレ誘導、居室のポータブル、共同トイレにて、排泄される。		排便時の落ち着きがない、不機嫌にするなど観察し誘導している。トレーニングパンツ、尿取り等の使い分けをしている。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の曜日を決め、入浴のない日には外出して、ドライブやふれあい物産展に買物にでかけている。入浴の時間帯は13:00から20:00迄だが特に決めていない。無理のない範囲にしている。		曜日、時間帯に限らず、失禁、排便による全更衣により、シャワー浴、入浴は行っている。入浴剤は自然商品を使い、御利用者の皮膚にさしさわりのないものを使用。時々近隣の温泉も利用している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドや畳の方がぐっすり眠れるよう状況に応じ、早く床につかれる方、テレビ観賞をして眠りたくなったら、居室に戻られる。時間が許される限り、見守り、支援行う。		何事も決めつける事のないよう安心して休息していただくよう、心がけている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の補助、カラオケ、おしゃれ、洗濯など一人ひとり生活意欲の芽をつみ取る事のないよう支える。		個人個人の以前にされていた趣味など情報、事細かく聞き取り、これから生きる意欲を見出せるよう取り組む支援を行っている。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進んだ方はお預かりしているが、お金がないと言われたときは、説明し、ご本人にお渡し、例えば、千円、五百円等小銭入れに入れられ、安心していただいている。		本人が所持されたり、いつでも使えるように保管場所も決めている。預け入れされている方には、外出の際、必ず、又は、月に2回～3回さりげなく聞いて確認している。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもらない生活を心がけている。		園外散歩、買物、ドライブ、希望に応じ出かけている。熱がある方など、余程の事情がない限り、日常的な外出を行っている。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1年に1度1泊旅行を実施している利用者の御家族の参加も募り、一緒に楽しんでいる。		出かける2週間前からおしゃれになられ食欲等も増してこられ、旅行から帰った時の感激、普段にはない歳を感じさせない、生き生きしている。今後も生きがいを持てるよう取り組んでいきたい。来年はお弁当持参でお花見見物を実現しようと計画。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は気軽に使用出来る様に2ヶ所に設置。職員が代弁する場面もある。事務所に切手、封筒等の用意があり利用できる。		本人に近況報告のお手紙、葉書等友人、家族に出される様薦めている。(年賀葉書、暑中見舞い含む)
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	おもいおもいの場所、居室、談話室等でお話されたり、テレビと一緒に観賞される等、おやつ等と一緒に食べられたりして過ごされる。職員の声かけや飲み物等、希望を聞いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の観点は非常に難しく運営者、職員全体で行わないケアに取り組んでいる。		ひまわり同意書、記録、経緯等、家族、主治医との連携を計り、行う様に取り組めをしている。今までに拘束の例はない。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員も理解している。		季節に合わせ、空調で温度調節を行っているが、外気も必要不可欠と玄関、ドア、窓等は開放している(日中)。利用者、御家族にも喜ばれている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	落ち着きのなくなった利用者には、ゆっくり声かけし職員にすぐ伝達している。玄関にはチャイムを付けたり、一人で外出時は近所の方に声かけて頂いたりしている。職員の配置にも工夫している。	○	出来る限り、玄関ドアを開放しているので、利用者様からの「タバコを買いに行きます。花を買って来ます。日なたぼっこする」等、気軽に声かけがあり、良い状態になった。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は、物品担当者が管理室に鍵をかけ危険を防いでいる。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守り、誘導、外に出て行って不明が繰り返す方には、家族と相談し事故防止に取り組んでいる。位置確認用の機具等携帯して頂く。	○	転倒、窒息、誤薬は介護者が知識を学び、状態に応じた事故防止をしている。火災防止の訓練を利用者、介護者と何回も行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが、その都度(嚙下、又、タッピング等)訪問看護師により指導を受けている、今まで急変や、事故発生時トラブルなく対応出来ている。		定期的な訓練を取り組んで行う。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震時等の連絡網を作成し、非難方法が出来るようにマニュアルを作り、地域の方達にも協力をお願いしたい。		非難方法等利用者を交えて訓練を行う。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクのある利用者には、家族と時々話し合い、対応策を話しあっている。		抑圧感のないように説明し、職員同志連携を執り合い、家族等に対応策を話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル時、入浴の際、食事摂取量、水分量の確認、その場面での観察など、又、ちょっとした訴え等に目を傾けている。		入浴時にも、身体の変化を確認し、変化があれば看護師に速やかに通報し、処置を行っている。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬状を添付して折り、変更があった場合は、担当者に伝達、朝礼、終礼、ミーティング等で申し送りして、理解し、服薬は確認している、錠剤等は本人にとって飲み込みにくい物について、主治医と相談等している。		一人一人の名前を入れた箱を使い、間違いを防いでいる。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	理解している通じの良い繊維質の果物、飲み物等、おやつに提供したり、ヨーグルト等を利用している。適度な運動や腹部マッサージ等実施している。		日誌に排便の記入、排泄覧に日報の書き込み等行っている。その都度、話し合いをし、対応等は、ようやく全体に浸透した。これからも、今以上に取り組んでいきたい。(看護師にも、相談している。)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	清潔保持の為、食後のうがい、歯磨きの支援をしている。		利用者で口腔内の清潔を食事後、推否する方は、トイレ後、それとなくうながして、うがいを行っていただく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見等もふまえ、取り組んでいる。選び味付けを変えたり、どんぶり物等のご飯と具を、別皿に盛り付けしたり、減塩のかけ醤油等に使い分ける等、工夫している。		水分量等は、常時個別に携帯出来る物にするなど、一人一人に合わせた摂取を24時間行っている。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは運営者、全職員、利用者にとりてまで予防接種を実施している。職員に関しては会社が全負担している。糸田町の健康診断を利用者は定期的に受け、又、主治医に検査を受けている。排泄の失敗等には消毒を毎回、実施している。	○	
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	運営者自ら、食材を買い求め、野菜は訪問販売により毎日、新しい食材を提供している。調理用具は消毒除菌(塩素系)、天日干し等で毎日行う。		
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチ、イス、テーブル等を配置、本人が描いた壁画や看板を施している。ドッグセラピーを実施して、愛犬「さくら」が、寝そべっていたり、ゆったりした雰囲気を作っている。ドアも開放されている。(季節の花をプランターに植えている。)		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物、観葉植物、花、利用者様の作品等季節に応じて変えている。居間は畳敷きにゴロ寝や、リハビリ等出来る様、スペースを取っている。		トイレには使用後の匂いが残らない様、自動噴射の芳香剤を設置し、日中、天候や時間に応じて照明を切り替えている。空気清浄機等を配置して、タバコの匂い、煙り等にも配慮している。(喫煙場所)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー、廊下、洗濯場等にソファ、イスを配置し、外周りにも園内で飼っている犬(さくら)と遊べる様、イス、テーブル等も用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や宗教を重んじられる方は、持ち込み可能にしている、ローソク等は電気の物に替え使用。家具の配置も本人の希望に添っている。装飾品等にも制限はない。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	調理の際は換気扇を使用、日中の時間帯に応じ、窓やドアの開閉、エアコン、扇風機等、居室内も同じく、又、カーテンブラインドで、調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水廻りは床の色を替え、すべり止め防止の塗料を使用、出入り口は解り易く物を配置。歩行器、車イスがすれ違える広さの回廊等、歩いてリハビリ出来る様になっている。洗面台、洗い台と種類を揃え、それぞれに合った使い方をしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	昼夜の排泄時の使い分け、トイレ、ポータブル、トレーニングパンツ。オムツ等、相談して決めている。洗濯場の分担、各自、御自分で洗われ、又、たためる方は談話室、居室等で皆さん行っている。食事の準備、台所、談話室に分かれ参加される。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	イスやテーブル、縁側をイメージした木のばんこ(イス)等の配置、空地や不用な溝中を利用し土を入れ、家庭菜園の実施、玄関廻りの花植え等、実施している。		

職員	職員
利用者	利用者
職員	職員

図 1. 図 a

通いの	社務室
運営推	社務室
職員	社務室
職員か	社務室
職員か	社務室

【特に力を入れている点・ア
閉じ困らない生活、
四季を五感で確かめる工